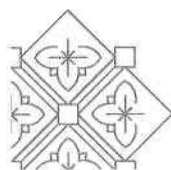


■Topics

ベルリンの大学物語—東西分断の歴史を経て



東京大学 教育企画室 特任准教授 船守 美穂

career

Miho FUNAMORI ●

東京大学理学部卒業、同大学院地球惑星物理学専攻修士課程修了。三菱総合研究所、文部科学省大臣官房国際課等を経て、2005年から東京大学国際連携本部、評価支援室IR担当を経て現職。ドイツ10年間在住の帰国子女。



まえがき

ベルリン。18世紀プロイセン王国の時代からその地域の中心であり、その後、ドイツ帝国やヴァイマル共和政、ナチス・ドイツの時代まで首都であった。しかし第二次世界大戦後、ドイツが西ドイツと東ドイツに分断されると、ベルリンも西ベルリンと東ベルリンに分断された。東ドイツに属する東ベルリンは、東ドイツの首都であり続けたが、西ベルリンは東ドイツのほぼ中央にポツネンとある西側の飛び地かつ英仏米の占領地でもあり、首都の機能を果たすことができず、西ドイツの首都はボンに仮移転された。東西統一が実現したら再び首都をベルリンに戻すということを念頭に。1990年にドイツが再統一されると、ベルリンは再び、今度は統一されたドイツの首都として、返り咲いた。

ドイツの東西分断の歴史、特にベルリンのように一都市において東西を分断する壁が歴史のある瞬間に突如としてできると、多くの悲劇が起きる。家族や親戚、友人が東西に分断される。それをまた乗り越えようとして、射殺等されるなど。また、東西統一がなされれば万事元通りかというところではなく、数十年の分断の歴史を経て、人々はそれぞれに西側、東側の思想に感化、もしくはそれに対抗して思想を発展させ、ようやく巡り会えた親戚や友人であっても考え方が合わないといった悲劇が生じている。東西が統一されて20年以上たった今でも、人々の行動から、旧西側で

あるか旧東側であるかは感じ取ることができるのである。

このような東西分断と再統一の歴史のなかで、ベルリンの大学達はどのような歴史を経てきたのであろうか。ベルリンの大学は現在、どのような状況に立たされているのだろうか。ベルリンにてベルリン自由大学とベルリン工科大学を二つ訪問したところから垣間見た、ベルリンの大学の歴史を紹介したい。

ベルリンの4つの大学

ベルリンの主要な大学は現在、四大学ある。1) 教育改革者で言語学者のヴィルヘルム・フォン・フンボルトによって1810年に創立された、歴史あるフンボルト大学。2) プロイセン国王フリードリヒ2世によって1770年に創設された鉱山夫・精錬工教習所に淵源をたどることができる、1879年創立のベルリン工科大学。3) 第二次世界大戦後、自由な世界の象徴として西ベルリン側に1948年に設立された、ベルリン自由大学。そして、4) ベルリン芸術大学である。

東西分裂以前は、ベルリン自由大学はなく、主

要大学は3大学のみであった。それが、フンボルト大学がたまたま東ベルリン側に立地しており、東西分裂により西ベルリンに総合大学がなくなってしまったことから、西ベルリンにも総合大学設立の気運が高まり、アメリカからの援助も受け、ベルリン自由大学が誕生した。

東西統合後、ベルリンには主要大学が4つ残った。一方、ベルリンは都市というだけでなく、都市州でもあり、ドイツにある16州のうちの一つという位置づけである。ドイツの高等教育機関はそれぞれが立地する州の管轄下にあることから、ベルリンは4つの主要大学を運営しなくてはならない。都市州かつ特別の産業がないことから、州の予算規模も他の州に比べて小さく、当然のことながら4つの大学の維持・運営は、財務的にとても厳しい。各大学について、教職員数半減といった目標が設定され、実施に移されているとのことである。

ベルリン自由大学誕生の歴史

ベルリン自由大学の本拠、ベルリン郊外のダーレムの地を歩くとき奇妙なことに気づく。ヘンリー・フォード講堂、ベンジャミン・フランクリン大学病院など、アメリカの偉人の名称を冠した近代的な建物や通りの名称が目につくのである。ちなみに、ドイツ人のもつアメリカに対する評価はそれほど高いものではない。アメリカの自由な空気・文化への内在的な憧れの感情はあるものの、その反動もあって、歴史が浅く、行動や考え方が直線的すぎるアメリカ人をフンと鼻であしらったり、敢えて皮肉って持ち上げたりといった感じだ。だから、これが米国崇拝に依るものでないことは確かだ。では、これら名称は何に由来するのか。

ベルリン自由大学は当時の西ベルリンに1948年12月に設立された大学である。終戦が1945年。ヤルタ会談によりベルリンは英仏米ソの4か国で

占領されることとなるが、その後英仏米はそれぞれの占領地から撤退。ソ連のみがベルリンに駐留し続けるうちに、世界では東西陣営の亀裂が明白となる。ソ連は西側への対抗措置の一つとして1948年6月、自身の占領地から西ベルリンに向かう道路・鉄道網をすべて封鎖し、ベルリン全体の経済統制を試みる。西側はこれに対抗して、空輸作戦により食糧や燃料などの物資を一年以上、西ベルリンに送り続ける。そのような最中に、ベルリン自由大学は誕生している。

戦前、ベルリンにある総合大学といえば、1810年創設のベルリン大学（現フンボルト大学）であった。創始者フンボルトの理念により、研究と教育の一体化という近代大学のモデルとなった大学であり、ヘーゲルやヘルムホルツ、コッホ、アインシュタイン、プランクなど数々の偉人を生み出している。他方、ベルリン大学は偶然ながらソ連側の占領地にあったことから、ベルリン大学は第二次世界大戦後、社会主義体制の思想統制を受けることとなる。そのようななか1948年夏、3名の学生が政治批判を行ったことにより退学処分となった。

この事件が引き金となり、学生が学問と言論の自由を求めて立ち上がり、西ベルリンに自由な大学を創設すべきと働きかけをはじめたのである。運動はたちまち学生2000名規模にまで膨れあがり、教員の一部も賛同し、数ヶ月後にはベルリン

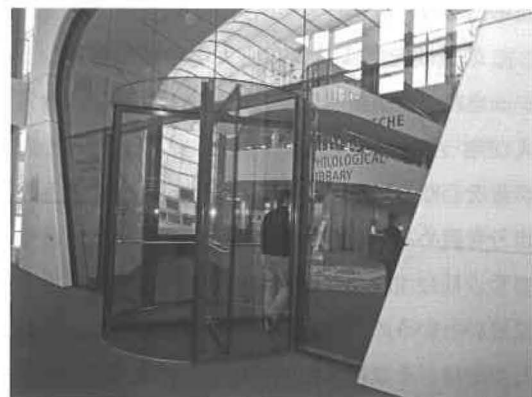


図1 ベルリン自由大学言語学図書館入口

の政治家およびアメリカの協力を得てベルリン自由大学が設立されるのである。

自由と正義、真実の象徴として設立された大学であるから、大学のモットーも「真実・平等・自由」というものである。ベルリン自由大学という名称も、この誕生の歴史に由来している。

無論、言論の自由が保障された大学が重要であるといった高貴な精神だけで、戦後の物資欠乏時代に大学が設立された訳ではない。ベルリン自由大学は西側陣営にとっても、民主主義と自由の象徴として有用であった。だからアメリカからは多大な援助があり、その寄付者の名前を冠した近代的な建物が複数建設され、1963年にはケネディ大統領もベルリン自由大学を訪問し、かの有名な「私はベルリン市民である」¹といった言葉で締めくくる講演を行うのである。

ベルリン自由大学は総合大学であるが、人文・社会科学の分野が優れている。それは大学のこうした誕生の歴史やベルリン自体の政治的な複雑性から、特に国際関係論の分野など、世界から多くの研究者が惹きつけられているからである。

ちなみに、ベルリンの壁が実際に建造されたのは1961年以降であり、ベルリン自由大学が設置された1948年は市民がまだ比較的自由に占領地域間を移動できた。ではなぜ、ベルリン自由大学が設立された時点で、当時のベルリン大学の教員と学生は全員、ベルリン自由大学に移籍しなかったのだろうか？

この質問をベルリン自由大学の国際部長レッシュホルン女史に問うたところ、以下のような答えが返ってきた。「戦後直後は、ナチスが行った暴行を心から悔やみ、そのようなドイツを許した自分を責める教員がとても多かったのです。今でこそ、社会主義より民主主義の方が社会体制として良いというのが当たり前となっています。しかし当時は、そこはまだ明確になっておらず、社会主義体制になればより良い社会となる、としがみ

つく思いで、心から信じていたドイツ人が多かったのです。だから、当時の教員は自分の信念により、これが正しい道と信じてフンボルト大学を選んだ。・・・しかし実際に起きたことは、フンボルト大学では社会主義体制のもと思想統制が行われ、ナチス時代と同じような独裁体制となり、他方、ベルリン自由大学では自由と民主主義の精神のもと、多様な政治思想が許され、多様な考え方のもとに、より良い社会を実現ができる素地が生まれたのです」。

戦争の傷跡というのは怖いものである。また、大学教員といってもその時代の価値観から逃れるのは如何に難しいことか。戦争に時代に翻弄される大学教員の像をそこにみた。

戦争の爪痕を残すベルリン工科大学

東西ベルリンを隔てていたブランデンブルク門の西側、ベルリンの中心街にほぼ位置するエルンスト・ロイター広場に面して、ベルリン工科大学はある。この広場はブランデンブルク門から、プロイセン王フリードリヒ1世が郊外に建てたシャルロッテンブルグ宮殿に伸びる主要幹線道路6月17日通り沿いにある。6月17日は、1953年、ノルマ未達成者の賃金カットという東ドイツの新政策に対して東ベルリンに起きた暴動の起きた日である。西ドイツではこの日を「ドイツ統一の日」への祈願とし、当時のシャルロッテンブルグ通りを6月17日通りへと改名した。

エルンスト・ロイター広場から学長室のある本館に向かうと、由緒ある建物複数の脇を通り過ぎる。ところが、本館正面は極めて即物的な新しい造りの建物である。この本館は、学長室や本部事務局だけでなく、大学の最も大きな講義室（講堂）も内包する建物である。

本館に足を一步踏み入ると、これまた即物的な、質感とか風格といった言葉とは無縁なロビー



図2a. ベルリン工科大学本館
(手前:正面入口(新館)、奥:隣接する旧館)

に出迎えられる。とりあえず、機能としてあればよい、というだけの空間。

ところが、口の字型に回ることのできる本館のなかを歩くと、あるところを境に、とても歴史と風格を感じさせる回廊となる。そして、ここには色のはげなかった古い壁画などもあり、それを通り過ぎると今度はとても美しい中庭にでる。

冒頭にも記したように、ベルリン工科大学はプロイセン国王フリードリヒ2世が創設した鉱山夫・精錬工教習所に淵源をたどることができ、その後、ベルリン建築アカデミーや王立職業アカデミー、王立鉱山アカデミーなどとともに1879年、ドイツ初の工部大学校として創設された、由緒ある王立の大学である。19世紀の産業革命の進行する頃であり、技術者の需要と同時に、その社会的地位の確立の必要性も高まり、第9代プロイセン王国国王・第3代ドイツ帝国皇帝であるウィルヘルム2世が1899年、ドイツの工部大学校としては初めて、学位授与権を認めた。

本館の風格ある回廊や中庭はその当時の建物である。一方、本館正面をはいてすぐの比較的新しい即物的な建物は戦災により壊れてしまった本館の部分を新たに建て直した部分である。本館を案内してくれたベルリン工科大学の教育の質保証課長トゥリアン氏が説明をしてくれた。

「ベルリン工科大学はウィルヘルム2世が創設



図2b. ベルリン工科大学本館2階ロビー

した由緒ある大学で、この本館もその当時のものです。しかし第二次世界大戦で本館の正面が破壊されたとき、この正面部分は取壊してこの醜いかたちで修復することが決定されたのです。戦争を起こした過ちを二度と忘れないように、そしてベルリン工科大学もドイツ一の工科大学として戦争に荷担したという事実があるので、そうしたことが二度と繰り返されないように。それらを過去の記憶として風化させないために、このような醜い建物を作り、残すことにしたのです。この醜い建物はこのため、建て直すことは許されていません。このまま未来永劫、残すことが決められているのです。こうして旧館と新館の境を明確に残して、戦争の記憶を覚えておくためにね。」

ちなみにここで新館の形容としては、「醜い(häßlich:ヘスリッヒ)」という言葉が用いられた。ヘスリッヒというのは醜いという意味のドイツ語で、見るに堪えない、身の毛もよだつような醜さを形容する表現である。“Ein häßlicher Mensch (醜い人)”といった場合、単なる容姿だけでなく、心も醜い人を指す場合が多いぐらい、気分の悪くなるような醜さを表現する言葉である。蛍光灯ですら、風味のない生々しすぎる明るさ²として嫌うドイツ人である。この新館は鳥肌が立つほど気分悪いのであろう。案内してくれたトゥリアン氏は今にでもこの建物を壊したいという感情を思い



図2c. ベルリン工科大学本館回廊

切り表に出していた。

ベルリン工科大学は戦後1946年、新しいスタートを切った。敢えて「大学の再開」という言葉は使わず、名称も工部大学校(Technische Hochschule)から工科大学(Technische Universität)へと変更し、「開学(Neueröffnung)」したのである。教育の使命も、専門教育からユニバーサル教育を中心に据え、また人文系の学問分野も擁するようになり、工学研究のもつ社会への責任も明確に位置づけられた。戦争に荷担したという罪の意識もあり、これらの改革は単に上から押しつけられたものとしてではなく、教職員の手によって積極的に推し進められた。

ベルリンの大学の現在

戦後の混乱のあと1960年代、70年代、今度は自由世界の象徴としてベルリンは学生運動の発信の土地にもなり、ベルリンの大学は再び混乱にまわられた。また一方では、その自由さを求めて学



図2d. ベルリン工科大学本館中庭

生が集まり、学生数も拡大³した。

1980年代に入ると財政難が感じられるようになり、そして1989年に東西の壁が崩壊し、1990年にドイツの再統一が図られると、再統一のための経費もかかり、ベルリン都市州の財政危機は明白となった。ドイツには州間の財政調整制度があるが、そこでもベルリンへの補助額は一位であり、ベルリンは裕福な州からはお荷物とみられている。高等教育行政という観点からは、ベルリンは再統一の結果、都市州の規模には多すぎる4つの大学の擁するようになり、大学間で分野の再編成や教職員数の半減といった目標を立てざるを得なくなった。1992年から2000年にかけて、ベルリン自由大学およびベルリン工科大学では教授数がそれぞれ半減以下となり、フンボルト大学でも35%減となった。

分野の再編成も行われ、地域研究ではたとえば、ベルリン自由大学は東アジアを担当、フンボルト大学はそれ以外のアジア地域を担当といったような役割分担がなされ、ベルリン自由大学にあったサンスクリット語はフンボルト大学に移されるといった措置が行われた。一方で教職員数の縮小といった目標もあるため、フンボルト大学はインドの地域毎の言語やサンスクリット語等古代の言語の全ては維持することができなくなり、サンスクリット語はベルリンでは学べなくなった。必然的に研究面でも両大学において影響がでるといった

ことが生じている。ベルリン工科大学でも戦後擁するようになった人文系の分野を再び手放すといったことが生じている。

他方、このような財政難が、ベルリンの大学の活力の源となっているともいえる。ベルリン自由大学は、ベルリンの4大学のうち最も歴史が浅く、またフンボルト大学とも分野の重複が多く、このようなベルリン都市州の財政事情のもと閉鎖される危険性が最も高かった。そのような危機意識のもと教職員が一丸となって努力した結果、2006年からドイツ連邦政府のもとで導入された大学研究支援プログラム「エクセレンス・イニシアティブ」でベルリン自由大学は第1期で選定された9つのエリート大学のうちのひとつとして選ばれ、2012年の第2期にも第1期から引き続き選ばれている。歴史あるフンボルト大学は第2期になり初めてエリート大学として選ばれた。ベルリン工科大学でも、こうした人員の縮小を単なる組織の縮小として受け止めるのではなく、これを機に分野の再編成を行い国際的に競争力のある分野を明確にしたり、組織マネジメントの方式を変えたりするなど、スリムで活力あるマネジメントに切り替えている。

あとがき—ドイツの大学の現在

今回の2012年12月の出張ではベルリン以外にもボン、ケルン、マインツなどの大学を訪問したが、どこでも未来に向けての勢いを感じた。

ドイツは16の州ごとにそれぞれ高等教育のシステムも少しずつ異なるが、どの州でも日本とほぼ同様の大学改革が進行しており、2007年ごろから大学の法人化や認証評価⁴の導入などが行われている。日本の21世紀COEの真似で連邦政府により、上述のエクセレンス・イニシアティブも導入されている。少子高齢化も日本と同様に深刻である。(州にも依るが) 財政面はまだ比較的安

定しているものの、授業料を導入したり、しかし一方では数年後には反対運動のため再び撤廃したりと、浮き沈みもある。伝統的には13年要した初等中等教育が12年へと短縮されたり、再び13年になったりと、大学側では年によっては2倍の入学者を受け容れなくてはいけないといったところでも混乱をかかえている。ボローニャプロセスなど、教育課程を従来のディプロマから学部/大学院教育へと移行することも、制度上は概ね移行しつつあるが、財政的補助のないまま改革をした歪みが今になってきているといった話も聞く。これらの改革や制度が16の州ごとに異なることも大きな混乱要素である。ドイツでは州を移動することより、国をまたいで移動する方が楽であるといった声も聞く。

そのような状況であるにもかかわらず、どの大学もエクセレンス・イニシアティブに採択されたことを誇らしげに語ったり、大学で現在進めている改革を熱心に語ったりしており、未来に前向きであった。ベルリン自由大学やベルリン工科大学に至っては教授半減といった大削減が断行されていたにもかかわらず、縮小によって力が弱まった等の泣き言は一切聞かれなかった。一つにはドイツは財政面ではまだ比較的安定していること、大学間の序列がまだ明確ではなく抜き出る可能性がまだ十分にあること、そして法人化とともに大学の裁量の余地が実際に大きくなったことなどに依るようである。外からの改革を、内側の改革のテコとしてうまく使い、国際競争力のある分野に集中する機会としてうまく捉えている。

法人化とともに導入された州政府との契約も基本的には学生数や教員数、外部資金の導入額の目標値とそれに対する州政府からの補助金額など、極めて基本的な数値に関わるもののみが中心に記載しており、これだけを守っていれば大学は比較的自由な大学運営が可能なのである。評価が悪くならないよう文章表現に気をつけるあまり、曖

味模糊とした目標が立ちならび、実際の大学運営まで目鼻のないものになってしまう日本とは違うようである。

日本とドイツの大学を比べたとき、その水準や財政事情がどうなのかを客観的に比較することは難しい。ドイツの大学がとても元気に見えたが、もしかしたら単に日本人がまじめで悲観的すぎるだけで、日本の状況はそれほど酷くはないのかもしれない。しかし、将来に目をやったとき、現在のドイツ人の勢いは将来への発展を感じさせ、一方で閉塞感や沈滞のただよう日本は将来のどん詰まりを感じさせ、必然的に数十年後の行き着く先が思いやられ、ドイツが羨ましく感じられた。

(2012年12月訪独より)

【注】

1. ケネディー大統領はベルリンを自由世界の象徴として「いずこに住もうとも、すべての自由なる人は、ベルリンの市民である」とし、「であるがゆえに、私も一人の自由なる人間として、誇りを持って言いたい。『私は、ベルリン市民である (Ich bin ein Berliner!)』」という言葉で講演を締めくくった。
2. (蛍光灯の) 明るさ:ここでは敢えて「光」としなかった。光は雰囲気のある明かりである。
3. 西ベルリンの60年代、70年代の学生数の拡大:当時の西ベルリンは英仏米の占領地という扱いで、西ドイツ政府に行政の一部が代行されていたものの、西ドイツの法律のもとにはなかった。このため、西ドイツにあった徴兵制度が西ベルリンにはなく、徴兵を嫌い西ドイツから西ベルリンに移住する若者もいた。
4. ドイツの認証評価:ただし日本のような機関評価ではなく、教育プログラムの認証評価が主流である。

News Clip

2014.9月号 (Vol.10 No.6 通巻111号 P44)

■学校教員統計調査-平成25年度 (中間報告) の結果の概要

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa0/kyouin/kekka/k_detail/1349035.htm

■「スーパーエコスクール実証事業 (平成25年度)」における基本計画書 (概要版) の公表について

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1350511.html

■科学技術イノベーションに資する産学官連携体制の構築 ～イノベーション・エコシステムの確立に向けて早急に措置すべき施策～

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu16/001/houkoku/1313877.htm

■産学官連携の実績: 文部科学省

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/sangakub.htm

■産学官の道しるべー産学官連携に関する情報サイトー

<http://sangakukan.jp/top/>

■イノベーション創出へ向けた技術移転事例集ー国公立大学・独立行政法人・高等専門学校の"知識と知恵"で国民の生活の質の向上へ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/07091398.htm

お知らせ

大学マネジメント研究会では、皆様のご意見を紙面に反映させるため、今年4月号より読者アンケートを開始いたしました。アンケートは当会HPより専用フォームを利用してご回答いただけます。アンケート期間は毎月会誌発売日から翌月9日までとなっております。記名無記名は、任意での記入となりますのでお気軽にご回答くだされば幸いです。

(大学マネジメント研究会 事務局)



読者アンケート
QRコード